

津具の「行者信仰」について

このたび機会を得ましたので津具地内に現存する行者様について記したいと思います。

「行者」とは、小学館発行の百科事典によれば、

もと佛家の語で、佛道を修行する者を言ったが、中世からは特に【役小角】^{えんのおんかく}を祖とする修験道の苦行者を云い（中略）行者は修行の結果、宗教体験を深めて神通力を得たと確信するようになり、神と人との中間に立つて神霊の伝達者となる場合が多い。天変地異や病氣などを、神のたたり、悪魔のしわざと信じる人々が行者によって神意を伺い悪魔を払う例が知られる。とあります。

このような背景から同感の志が集まって行者像を作り信仰してきたものと思われます。ちなみに津具地内には、行人原とか、今は河川改修で消滅しているが、行者淵と呼ばれる所があります。

現在津具地内には五ヶ所に行者様を祭っている場所があるので、上流側から順次記してみたいと思います。

最初は、行人原地内の町道折

元線の脇の林の中で、少し登った場所に自然石の露出した所に階段を造り、そこに石造の行者様を安置してあります。お祭りは毎年盆明けの八月十七日に行人原地区の

三組の人たちが参加して行っていますが、最近参加者の数も減っているようです。



二番目は、井口地区の県道80号線の道路脇に、石造の行者様が安置されております。行者様の周辺には多くの馬頭観世音も集められており非常に目立ちます。この行者様は他所と同じように道路改良工事により少し移転を求められましたが、ほぼ同じ場所に安置されております。お祭りは上古町地区の人々によ



り行われていますが、世代交代が進み参加

者がいなくなり自然消滅しているようです。

三番目は、

油戸地区の釜石地内の県道426号線から少し山の中へ登った所に安置されてお



ります。お祭りは、毎年四月の第一日曜日の中油戸地区の人たちが中心に行われていますが、やはり参加者は少なくなっているようです。

四番目は、河川改修により消滅して今はありませんが、行者淵近くの県道427号線添いの路肩にあり、ブロック積の上に安置されております。これも道路改良工事のためほぼ同じ位置に移転されておりますが、この行者様も他所と同じように石造で、当時のメンバーは一人のみとなり、お祭りはされていないとのことでした。



最後は、

大島地区の白鳥山の行者様で、元来は白鳥山の中腹の非常に険しい所で



まさに「修行」を行うのにふさわしい場所にありました。仲間が親戚縁者でまとまっており、お祭りをしてきたのですが、近年皆寄る年波には勝てず、県道427号線添いの林の中へ下げたお祭りをしてきました。最近では年末年始に一人でお参りをしているのが現状だそうです。この行者様は非常に珍しい木製で、腐朽防止のためお堂に納められております。お堂の中には行者様を中心に向かって左側に和尚さん、右側に修行僧を従えて安置されております。

最近では石佛などの盗難が各地で起きているので、不祥事が起きないよう施設管理がされています。

（設楽町文化財保護審議会委員

村松豊太郎）